



2005年5月29日

日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

43-0468(福田)
42-2462(鈴木)

毎週日曜日 発行
お問合せは上記へ

21世紀をになう
子どもたちに

豊かな人格形成と 正しい社会認識を

「つくる会」の教科書を 採択しないよう要請

5月25日、日本共産党北茨城市議団は、教科書の採択に関し、教育委員長ならび教育長にあてて下記の要請書を提出しました。

今年は、学校で使われる教科書の採択の年になっています。文科省の検定で合格とされたもののなかに「新しい歴史教科書をつく



要請書を提出し、申し入れをおこなう福田明、鈴木やす子両市議

る会」による教科書が含まれ、マスコミなどでも議論を呼んでいます。21世紀をになう世代が日本の国の歴史を正しく認識することは、国際的な相互理解を深めるための前提。先の侵略戦争を美化し植民地支配を肯定する「つくる会」の教科書は採択すべきでない」と市議団は主張しました。

また申し入れにさいしては、この教科書を発行する出版社が検定前に地方の教育関係者に申請本を見せていた問題についても指摘しました。文科省も「ルール違反」と表明しています。はじめから規則を無視するような出版社であり、その点からもこの教科書はふさわしくない」と市議団は強調しました。

北茨城市教育委員会
教育委員長 中根教文 様
教育長 小西道房 様

2005年5月25日

日本共産党・北茨城市議会議員
福田 明
鈴木康子

教科書採択に関する要請書

2006年度から使用される中学校教科書の検定で、文部科学省は、「新しい歴史教科書をつくる会」の社会科(歴史・公民)教科書を再び合格させました。

「つくる会」教科書は、アジアに対する侵略戦争と植民地支配を肯定し美化するとともに、大日本帝国憲法や教育勅語を賛美する一方、日本国憲法や教育基本法の「改正」を主張する内容となっています。

教科書は21世紀をになう子どもたちの正しい社会認識を育て、豊かな人格形成に資するものでなければなりません。したがって、教科書の採択は慎重かつ入念に検討を行った上でなされるべきと考えます。

当市においても、教科書の採択が公正かつ民主的に行われるよう下記事項を要請するものです。

記

1, 教科書の採択にあたっては、子どもと日常的に接し子どもの実態を一番よく知っている現場教師の声を尊重すべき事はいうまでもありません。

「つくる会」は「教科書採択の過程における、下部機関による『しぼりこみ』を廃し、採択権者としての責任と見識において、適正な教科書を選ぶこと」としていますが、採択権が教育委員会にあるとする法律上の明確な規定はなく、採択期間内に必ずしも教育の専門家ばかりでない教育委員だけで教科書を選定することは、事実上不可能といわなければなりません。教育現場の意見がいつそう反映されるよう要請いたします。

2, 国際化時代にあつて、他国との対話と相互理解をすすめることは、ますます大事になっています。このようなとき独善的な歴史観で日本の過去を美化したり、武力をもって国際社会に対応すべきことを強調するような教科書は、これからの日本をになう子どもたちの教科書としてふさわしくありません。

このような教科書でわが市の子どもたちが学ぶことはどうしても認められません。

「つくる会」の教科書だけは、絶対に採択しないよう要請いたします。



茨城県母親大会開催

5月22日、県の母親大会が土浦市で開かれました。敗戦から60年。憲法や教育基本法を改悪しようという動きに、戦争の足音が聞こえます。生命を育て守ろうという呼びかけのもとに、県内各地から1200名が集いました。